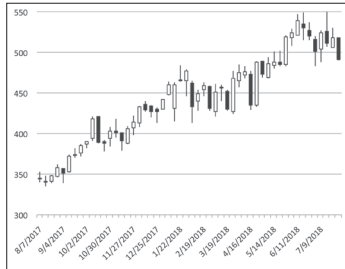


いちご (2337・東1)

心築事業は前期比96%増
大幅増収益を達成

2019年2月期第1四半期連結業績

売上高	161億800万円 (前年同期比24.7%増)
営業利益	59億9200万円 (同90.2%増)
経常利益	52億1700万円 (同148.7%増)
四半期純利益	35億4700万円 (同58.5%増)

2019年2月期通期連結業績予想

売上高	一円 (-)
営業利益	250億円 (前期比19.9%増)
経常利益	220億円 (同14.7%増)
当期純利益	150億円 (同7.0%増)

いちご (2337) が7月12日に発表した2019年2月期第1四半期業績は、大幅な増収益を達成した。

同社は「心で築く、心を築く」の信条のもと、心築（しんちく）と呼んでいる資産価値を向上させた不動産の賃貸や売却、REITやインフラ運用などのアセットマネジメント、太陽光発電を主としたクリーンエネルギー事業も手掛ける。

主力の心築事業において、ストック収益とフロー収益ともに伸長し、セグメント利益は前期比95.7%増。また、クリーンエネルギー事業でも『いちご昭和村生E C O越発電所』などの稼働を受けて、売電収入によりセグメント利益が同708%と好業績をけん引した。

今期はストック収益およびフロー収益ともに順調な成長により営業利益250億円（同19.9%増）、経常利益220億円（同14.7%増）、純利益150億円（同7%増）となる見込み。過去最高益更新を計画しているだけに、業績の動向に注目していきたい。

また、配当は前期実績より1円増配の1株当たり7円とする意向で、7期連続の増配の見通しだ。